

指導資料

学習指導第2号

- 小, 中, 高, 盲・聾・養護学校対象 -

鹿児島県総合教育センター

平成13年11月発行

基礎学力の定着を図る学習指導の在り方

これからの変化の激しい、先行き不透明な時代にあっては、自ら課題を見付け、自ら考え、よりよく問題を解決する力などの[生きる力]を児童生徒にはぐくむことが求められている。この[生きる力]をはぐくむ上で、「読み・書き・算」をはじめとする知識や技能等の定着が重要であることは、言うまでもない。さらに、今日の教育上の課題である「心の教育」の推進や生徒指導の充実を図る上でも、基礎学力の定着を図ることは重要である。そこで、基礎学力の定着を図るための学習指導の考え方や進め方について述べる。

1 基礎学力をめぐる現状と課題

(1) 基礎学力のとらえ方

学習指導要領における学力は、観点別学習状況における4観点(「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」)で構成されている。

鹿児島県教育委員会は「基礎学力の定着に向けた指導の充実について(通知)」(平成11年)の中で、基礎学力について、「読み・書き・算」をはじめ、将来の社会生活を営む上で欠かせない基本的な知識や技能、態度、考え方などと示している。

これらを踏まえ、本稿では知識・技能等が学力の基盤であり、この部分が基礎学力の中核であると考えて論を展開する。

(2) 基礎学力の揺らぎとその背景

本県の児童生徒の学力については、特に義務教育段階における学力の揺らぎが懸念されている。

高等学校入学者選抜学力検査の結果では、表1に示すように、小学校レベルの「読み・書き・算」や知識・技能等が身に付いていない受検者が相当数いることが分かる。

表1 平成13年度高等学校入学者選抜学力検査

教科	小学校レベルの問題の誤答率(一部)
国語	「装置」(55.8%)、「果て」(38.5%)が書けない
数学	「 $2/3 - 2/15 \div 4/5$ 」が解けない(15.3%) 百分率を求める問題が解けない(36.0%)

また、児童生徒の意識調査では、「授業がよく分かる。」「大体分かる。」と答えている児童生徒が、学年が上がるにつれて減少し、中学2年生では約半分になる。

このような学力の揺らぎの原因として、次のようなことが考えられる。

○ 教師や学校の側の問題としては、これまでの新しい学力観の下で、興味・関心

などの情意面を重視しすぎたあまり，知識・理解面が軽視され，基礎学力の習得や定着に向けた取組が不十分であったことが挙げられる。

具体的には，学習指導のねらいが不明確なまま授業が行われたり，児童生徒の主体性を重視しすぎた結果，指導すべきことが十分に指導されなかったりするなど，分かる授業への取組に十分な工夫がなされてこなかった。また，学習のまとめや振り返りの時間など，学習した内容を確認する時間が確保されなかったり，ドリルや演習の時間が不足したりするなど，基礎学力の定着を図る授業の取組も不十分であった。

- 児童生徒の側の実態としては，表2に示すように，読書量や自宅学習時間が学校段階が上がるにつれて減少する傾向があり，「知離れ」「学習離れ」の状況があると考えられる。

表2 生活実態に関する調査（平成11年）

	小学校5年生	中学2年生	高校2年生
読書量が月間「0冊」の者	7%	30% (22%)	45% (28%)
平日の学習時間「0分」の者	5%	9% (9%)	31% (28%)

資料：県教育委員会 ()は平成5年調査の数値

(3) 取り組むべき課題

今後，学校で教えるべきことはきちんと教え，分かる授業を工夫するとともに基礎・基本の定着に向けた取組を，全職員が組織的に協同して行わなければならない。そのためには，児童生徒の学力の定着度を客観的に把握するとともに，これまでの指導の在り方を見直すことが大切である。

2 基礎学力の定着を図るために

このように，基礎学力の定着を図るため学校において最も対応を急がなくてはならないのは，分かる授業の実践と基礎・基本の定着である。また，基礎・基本の定着なくして分かる授業は成り立たない。これらは，いわば車の両輪とも言える。そこで，基礎学力の定着を図るために，学習指導の在り方や学校の体制づくりなどの視点から有効な対策を考えてみたい。

(1) 分かる授業の構築

ア 実態の把握

レディネステストやプレテストなどを行うことにより，児童生徒が何を学んで何を学べていないのかという事実を客観的に把握し，児童生徒一人一人の学習状況を的確にとらえる必要がある。

イ 学習内容の焦点化と教材の工夫

学習内容にはゆとりが生じたが，授業や学習時間にゆとりが生じたわけではない。児童生徒が学習内容を効率よく学び取るために，教師は学習内容の焦点化を図る必要がある。また，精選された内容をより分かりやすく理解させるために，教師はこれまで以上に創意工夫された質の高い教材を準備しなければならない。

ウ 指導と評価の一体化

学習指導において，教師は常に児童生徒がどのような状況にあるかを把握しておかなければならない。つまりいたり，学べていなかったりする児童生徒に対しては，学習指導法を見直し，工夫改善を図ることが必要である。また，教師は，児童生徒の学習状況によっては，その時

間の授業計画を即座に変えるなど、柔軟に対応することも必要である。

エ 個に応じた指導の充実

学校全体で取り組む指導方法として、チームティーチング（TT）や習熟の程度に応じた指導、少人数指導などが取り入れられているが、必ずしも良い成果を上げているわけではない。例えば、TTを進める上で、事前・事後の打ち合わせの時間が確保できない、教師間の指導に対する考え方が違う、TTの進め方などの専門的な指導技術が確立されていないなど、様々な課題も指摘されている。

そこで、TTによる学習指導を行う場合、教師が協力し合って学習の指導計画を立てたり、指導方法の改善について話し合ったりするなど、これらの指導方法が効果を上げることができるよう、学校全体で取り組む必要がある。

また、今年度からいくつかの小学校で教科担任制による学習指導が実施されるようになった。この教科担任制による学習指導では、教師の教科に対する専門性が深まり、指導力の向上が期待できるなどの利点が考えられる。また、複数の教師が児童に接することにより、児童に関する情報を多くの教師が共有でき、客観的な指導ができるなどの効果も期待できる。

このような教科担任制による学習指導については、まだ試行の段階であるので、今後、更なる研究が必要であろう。

このように、各指導体制について、様々な課題も考えられるが、情報の共有化を図るなど、内に開かれた学校づくりを進めていかななくてはならない。

(2) 基礎・基本の定着を図る工夫

ア 繰り返し指導

基礎・基本の定着を図るためには、分かる授業が必要条件となる。その上で、単元のまとめの段階において、ドリルや演習の時間を十分に確保し、分かるまで繰り返し指導しなければならない。その際に、学んだことを応用できるか、学んだことを用いて発展的なことができるかなどに留意して、基礎・基本の確実な定着を図ることが必要である。

イ 補充指導

学習内容を確実に学び取らせるためには、児童生徒が学び取るための十分な時間を確保することが必要である。時間内に定着を図ることができなかった児童生徒には補充指導も考えたい。場合によっては、放課後等の活用も考えられる。中学校においては、選択教科における補充指導も充実させなければならない。

ウ 定着の確認

教師は、児童生徒が学習内容を正しく理解し、知識・技能が確実に定着したかを確認しながら、学習のまとめをする必要がある。

(3) 学校の体制づくり

基礎学力を定着させるためには、学校全体で取り組まなければならないことは言うまでもない。そのためには、学年会や教科部会等を積極的に開き、児童生徒の実態を把握し、指導方法の改善を図ることが大切である。また、このような機会を通して、教職員間の共通理解を図り、組織的な取組をしていくことが教師の資質や能力の向上につながると考える。

3 基礎学力の定着を図る基本的な学習指導の進め方

基礎学力の定着を図る授業の姿を図示すると下図のようになる。

新たな事象や課題に出会った児童生徒は既有的知識・技能を基に課題解決を図ろうとする。

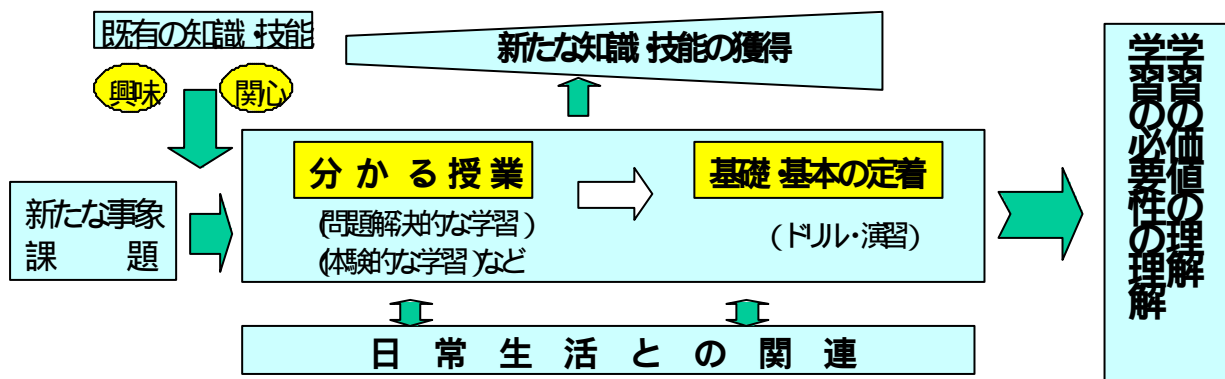
その際、日常生活との関連を図りつつ、問題解決的な学習や体験的な学習などを行いながら確かな理解を図る「分かる授業」を展開するとともに、ドリルや演習などの「基礎・基本の定着」を図る学習を展開することが重要である。その結果、児童生徒は新たな知識・技能を獲得することができその過程で学習の必要性や学習の価値を理解し、更なる学習への意欲を喚起することになる。

(1) 基礎学力の定着を図る学習

ア 分かる授業を展開する

児童生徒が意欲的に学習に取り組み主体的に問題を解決し、学習した内容を確実に理解するためには、次のような学習指導の工夫が考えられる。

基礎学力の定着を図るモデル図



児童生徒の発達特性、発達課題、実態等を考慮し、興味・関心を喚起し、明確な問題意識を形成すること。

児童生徒がこれまでに身に付けた能力を総動員して取り組む問題解決的な学習を展開し、納得させる。また、その過程で、学び方を学ばせるように配慮すること。

操作活動、実験、野外見学、調査などを取り入れた体験的な学習を展開し、実感をもって学ばせること。

学習内容と日常生活との関連が図られるように、学習したことを生かす場を設定すること。

イ 基礎・基本の定着を図る場を設定する
学習した内容を確実に定着させるためには、ドリルや演習によって繰り返し学習させる必要がある。その方法としては、次のようなことが考えられる。

類似問題を出し、学んだことを確認できるようにする。

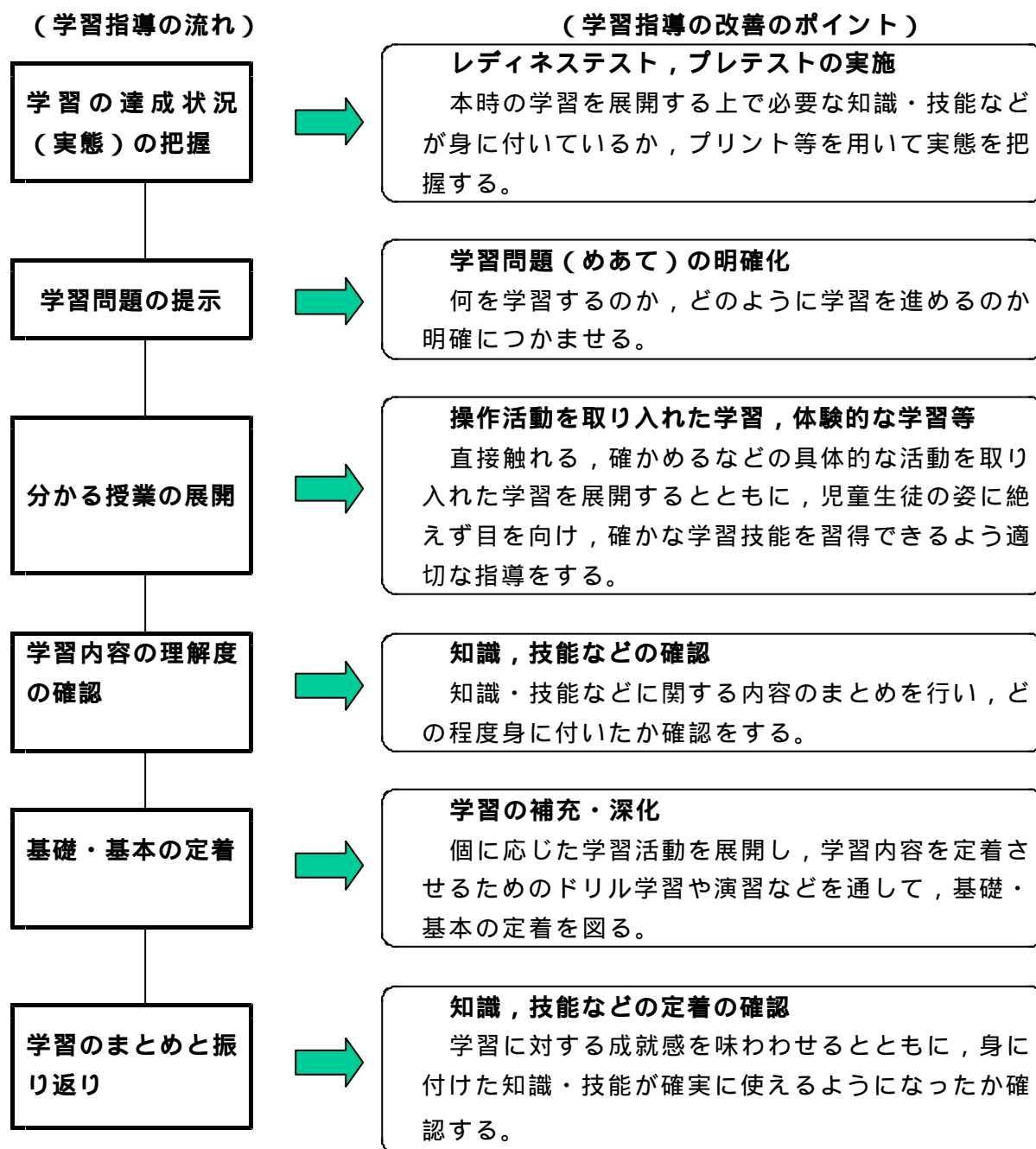
問題を難易度の低いものから順に提示し、どの段階でつまづいているかが分かるようにする。

より高度な問題を提示し、学んだことを発展、応用できるようにする。

(2) 学習指導の改善のポイント

分かる授業を展開し、基礎学力の定着を図るための改善のポイントを、学習指導の流れに沿ってまとめると、次のようになる。一人一人の児童生徒に基礎学力を確かに身

(写真)



に付けさせ、授業の内容を十分に理解させることは、私たち教師にとって、極めて重要な課題である。それを解決するためには、知識・技能の獲得に重点を置いた、1時間1時間の授業の積み重ねを大切にし、バランスのと

れた学習活動を展開する必要がある。以下、各教科における学習指導の構想例を示すこととする。

4 学習指導の構想例

(1) 小学校国語

新学習指導要領の第3学年及び第4学年の「読むこと」では、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにする。」ことを目標にしている。これは、説明的な文章を読むときに必要な能力である。そこで、第3学年最初の単元を取り上げ、説明的な文章を読むときの基礎となる「段落や中心文、重要語句に気を付けて読む」ことができるようになるための個に応じた授業の展開例を示す。

単元 まとまりに気を付けて読もう(教材名「ありの行列」大滝哲也 光村三上)

本時 (4 / 11)

ア 目標

ウイルソンが行った初めの実験の方法と、そのときのありの様子やウイルソンの考えを読み取ることができる。

イ 実際

「――」は改善のポイント

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
実態把握	1 前時の学習について想起する。 ・ なぜ、ありの行列ができるのか。 ・ ウイルソンが実験をした。	2分	・ 第1, 第2段落を読ませ、段落の中心文を理解しているか確認する。
問題提示	2 本時のめあてを決め、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">はじめの実験で、ありの様子をかかさつしたウイルソンは、どんなことが分かったらう。</div> ・ 様子が書いてある文は、文末が「～ました。」となっている。 ・ 分かったことが書いてある文が第3段落の中心文だ。	5分	・ 冒頭の文に実験の内容が書かれていることを確認し、第3段落を読むめあてを作らせる。 ・ 読み取り方を確認し、見通しをもたせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読み取り方 ・ 実験、様子、分かったことが書いてある文を見付けて線を引く。 ・ 文末表現や重要語句に着目する。</div>
展開	3 ウイルソンが観察したありの様子について、一人で調べ読みをする。	10分	・ 机間指導により、読み取りの状況に応じた支援をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">具体的な支援 ・ 様子と分かったことが区別できない。文末表現について具体的に再指導する。 ・ 三つに分けているが、文章全体に線を引いている。必要部分だけ選択するよう助言する。 ・ 三つに分け、必要な部分に線を引いている。絵などにかいて読み取ったことを説明できるよう助言する。</div>
確認	4 調べ読みしたことを発表し、ありの様子についてみんなで確かめながら読む。	18分	・ 時間を表す言葉や指示語、接続語、重要語句に気を付けて正確に読み取らせる。 ・ まとめとして、本文を実験、様子、分かったことが書いてある文に分けて読ませる。
定着	5 第3段落の文章を基に、内容を互いに説明し合う。	7分	・ 第3段落を何回か読んだ後、ペアを組み、各文の最初の言葉を相手に言ってもらいながら、交互に説明に挑戦させる。
まとめ	6 学習のまとめと次の学習計画の確認をする。	3分	・ 評価カードを基に、本時の読み取りについて相互評価や自己評価をさせる。

(2) 小学校算数

算数科の指導においては、個に応じた練習問題等に取り組みさせる時間やまとめの時間が不足しがちになっていた。そこで、基礎学力の定着を図るため、習熟の程度に応じた練習問題を指導課程に位置付けた算数科の学習指導の構想例を示す。本単元の中心の一つとなる計算方法を考える場面であるので、60分授業とした。

単元 2けたのかけ算（第3学年）
 本時（2 / 9）

ア 目標

（2位数）×（十いくつ）の計算の仕方を既習の計算を基に考え、その計算ができる。

イ 実際

.....は改善のポイント

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
実態把握	1 既習事項の確認をする。 ・ 40×30 はいくらでしょう。また、どうしてそうなるのでしょうか。	5分	・ できるだけ短時間で行う。 ・ 計算結果だけでなく、計算方法も説明させる。 ・ 理解の不十分な児童には個別に支援し、確実に理解させる。
問題提示	2 問題を把握する。 ゲーム大会のけいひんとして35円のおかしを16個じゅんびします。代金はいくらになりますか。	5分	・ 問題場面は、できるだけ児童の実生活との関連を図る。 ・ 題意を確実に理解させる。
展開	3 立式をする。	15分	・ 立式は全体で考えさせ、解決への見通しをもたせる。 ・ 多様な考えを引き出すようにする。 ・ 見通しのもてない児童には、図やタイル、ブロックなどで考えるよう支援する。
	4 35×16 の計算方法を自力で考える。 ・ 35×6 と 35×10 ・ $35 + 35 + 35 + \dots$ ・ 70×8 ・ 35×8 と 35×8 など		
	5 各自の解決方法を発表し、解決方法をまとめる。	15分	・ 多様な解決方法があることを分らせ、それぞれの考え方のよさに気付かせる。（相互評価） ・ 自分の考えた方法以外の方法で計算させる。 ・ よりよい解決方法に練り上げさせる。
確認	6 答えの確認をする。		・ 単位に注意させる。
	7 確認の問題を解く。 ・ 46×18	5分	・ 答えだけでなく途中の過程を書かせる。 $46 \times 18 = 46 \times 8 + 46 \times 10 = 828$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> $46 \times 18 = 828$ $\begin{array}{r} \swarrow \quad \searrow \\ 8 \quad 10 \\ 46 \times 8 = 368 \\ 46 \times 10 = 460 \\ 368 + 460 = 828 \end{array}$ </div> 筆算につながるように表現させる。
定着	8 練習問題を解く。 （できるだけかけ算九九の多くの段が出てくるように数字を工夫する。） ・ コース別学習をする。 Aコース Bコース Cコース （コース名は配慮する。）	12分	・ 机間指導で確実に実態を把握する。 ・ 習熟の程度に応じてコース別学習とする。 ・ コース選択については、児童の希望を考慮しながら、適切なコースを選択させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> [Aコース]（正確に、速く） 49×18 76×13 98×17 など [Bコース]（正確に） 49×18 $49 \times ()$ と $49 \times ()$ で など [Cコース]（確実に） 49×8 49×10 など </div> ・ できるようになったら C B A と進ませる。
まとめ	9 自己評価、本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	3分	・ 各自の理解度を把握させるとともに、次時への意欲をもたせる。

(3) 中学校国語

書くこと、とりわけ意見文を書くことについて、「何を、どう書けばよい分からない。」と苦手意識をもっている生徒が多い。そこで、自分の考えや意見を明確にもつことができるとともに構成や叙述など書くための方法を身に付けさせる指導の構想例を示す。適切な評価の方法を工夫することで進んで表現しようとする態度の育成もねらいとしている。

単元 意見文を書こう - 校内弁論大会のための原稿の作成 - (第2学年)

単元の目標

ア 広い範囲からテーマを見付け、必要な材料を集め、自分の考えを明確にするとともに、ものの見方や考え方を深めることができる。

イ 自分の考えが効果的に伝わるよう、4段落の構成で書くことができる。

ウ 相互評価や自己評価を行い、進んで表現しようとする態度を養う。

指導計画(6時間)

[] は改善のポイント

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
問題提示 展開	1 学習課題を明確にする。	0.5	・ どのようなテーマで、誰に、何のために書くのかを明確にする。
	2 テーマを設定し、それについて広い範囲で調べたり話し合いをしたりすることにより、自分の考えや意見を明確にする。 <div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 80px; margin: 10px auto; text-align: center; line-height: 80px;">写 真</div>	2.5	・ 情報収集や話し合いにより意見を明確にし、ものの見方や考え方を深めることができるようにする。 意見を明確にさせるための手順 広い範囲から必要な材料を集めさせる。そのため、学校図書館やインターネット等を利用できるようにする。 集めた材料が正しい情報か、自分の意見を支えるために必要なものか等について吟味させる。 集めた材料についてグループで話し合い、意見を交換させる。
確認 定着	3 自分の考えが効果的に伝わるよう構成を考える。	1	・ 集めた材料を基に構成を考えさせる。 構成を考えさせる手順 4コマ漫画を例に、4段落(起承転結)の構成について理解させる。 構想メモに主題文を書かせ、4段落となるよう集めた材料を配列させる。
	4 構想メモをもとに書く。	1	・ 原稿用紙の使い方を示したプリントを準備するとともに必要に応じて国語辞典を使えるよう準備する。
	5 評価する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">評価の観点 ア 考えが明確に示されているか イ 考えを支える材料は適切か ウ 4段落の構成になっているか エ 文字は丁寧で誤字等はないか</div>	1	・ 相互評価や自己評価により書くことの面白さを味わわせ、進んで表現しようとする態度を養う。 評価の手順 評価の観点を明示した評価表を利用して相互評価を行う。 アドバイス(良い点、気を付けるべき点)や感想なども書かせる。 友人による評価を踏まえ自己評価させる。 最後に教師による評価を行う。 ・ ホームページに全員の作文を公表する。

(4) 中学校数学

小学校での比例の学習においては、変数 x, y のとる値や比例定数 a は正の数であり、また具体的な2量に即した考察にとどまっている。中学校で、変域を負の数まで広げると分からない生徒が出てくる。そこで、日常生活との関連を図りながら、個々の生徒の考えを生かし、よりよい考えに練り上げる中で、比例の関係を確実に理解させた後、練習問題を解くことにより定着を図る数学科の学習指導の構想例を示す。

単元 比例・反比例(第1学年)
 本時(3/14)

ア 目標
 イ 変域を負の数にまでひろげて、比例の関係を理解できる。 [] は改善のポイント
 実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点														
実態把握	1 既習事項の確認をする。 自動車は、道路を東へ向かって毎時80kmの速さで走っている。この自動車が、P地点を通過してから x 時間後に、P地点から y kmのところにいるとする。ここで、東の方向を正の方向とする。 このとき、 (1) x と y の関係はどんな式で表せるか。 (2) P地点を通過して2時間後には、自動車はどこにいるか。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容についてレディネステストを行い、どこまで身に付いているか確認する。 できるだけ短時間で行う。 答えだけでなく、なぜかということも確認する。 理解の不十分な生徒には個別に支援し、確実に理解させる。 問題場面は、できるだけ生徒の実生活との関連を図る。 														
問題提示	2 問題を把握する。 上のことから、P地点を通過する3時間前には、自動車はどこにいたか。	3分	<ul style="list-style-type: none"> 題意を確実に理解させる。 														
展開	3 自分なりの方法で考える。(解答例) 表を使って求める。 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 5px;">x</td> <td style="padding-right: 5px;">-3</td> <td style="padding-right: 5px;">-2</td> <td style="padding-right: 5px;">-1</td> <td style="padding-right: 5px;">0</td> <td style="padding-right: 5px;">1</td> <td style="padding-right: 5px;">2</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 5px;">y</td> <td style="padding-right: 5px;">-240</td> <td style="padding-right: 5px;">-160</td> <td style="padding-right: 5px;">-80</td> <td style="padding-right: 5px;">0</td> <td style="padding-right: 5px;">80</td> <td style="padding-right: 5px;">160</td> </tr> </table> よって、P地点から西へ240km ・図を使って(比により)求める。 $1:3 = 80:x$ よって、 $x = 240$ ・ $y = 80x$ に $x = -3$ を代入して計算すると $y = 80 \times (-3) = -240$ これは、P地点から西へ240kmの位置にいたということを表している。	x	-3	-2	-1	0	1	2	y	-240	-160	-80	0	80	160	15分	<ul style="list-style-type: none"> 答えだけでなく途中の式や説明まで書かせる。 いろいろな方法で自由に解かせる。その際に式や表、グラフなどを用いて自分の考えをまとめさせる。
x	-3	-2	-1	0	1	2											
y	-240	-160	-80	0	80	160											
確認	4 各自の解決方法を発表し、解決方法をまとめる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> 各自の解決方法を発表させ、それらの方法について、それぞれの共通性を把握させ、そのよさを理解させる。 多様な解決方法があることを分らせる。 様々な解決方法の中から、$y = 80x$ に $x = -3$を代入したものに練り上げ、比例の式は変域が負の数でも成り立つことを理解させる。 														
	5 答えの確認をする。 6 確認の問題を解く。 水そうに毎分4ℓずつ水を入れ続けています。ある時刻を基準にして、 x 分後には、水そうの中の水の量が y ℓ増えるとします。 (1) y を x の式で表しなさい。 (2) 基準となるある時刻の3分前は、何ℓ少ないか。	8分	<ul style="list-style-type: none"> 単位に注意させる。 答えだけでなく、途中の過程を書かせる。 (1) $y = 4x$ (2) $y = 4x$ に $x = -3$を代入して、$y = -12$。 xの値は基準となるある時刻の3分前を表し、yの値は基準となる水の量から3分前の不足量を表す。 よって、12ℓ少ない。 机間指導で確実に実態を把握する。 														
定着	7 練習問題を解く。	7分	<ul style="list-style-type: none"> 確認の問題が解けたら、練習問題を解かせる。 習熟の程度に応じた問題を複数準備しておく。 														
まとめ	8 本時の学習を振り返る。 9 次時の予告をする。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 変域を負の数までひろげたときの意味まで含めて考える。 各自に課題意識をもたせる。 														

(5) 中学校英語

英語科において基礎・基本の定着を図るには、言語材料の理解を確実にするための練習を行うとともに、実践的コミュニケーション能力の育成を目指して、日常生活における言語の使用場面を想定し、それらを実際を使って情報や気持ち・考えなどを伝え合う言語活動の時間を十分確保する必要がある。その際、ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫、効果的な教育機器の活用、チームティーチングなどの指導体制の工夫等が大切である。

ここでは、日常生活との関連を図ることで言語活動を活性化することにより、基礎・基本の定着を目指した学習指導の構想例を示す。

題材 SUNSHINEENGLISH COURSE3, PROGRAM8 AWorkExperience Program (新教科書)

本時(3/6)

ア 目標

過去分詞の用法について理解するとともに、これを使って文章をつくることができる。

イ 実際 は改善のポイント

過程	主な学習活動	時間	指 導 上 の 留 意 点
問題 提示	1 ウォームアップ (復習)	5分	・ 前時の指導目標である現在分詞の用法について、絵を使ってまず口頭練習、続いて書き取りを行い、基礎・基本の定着を図る。
	2 新出語句の導入	2分	・ 文脈の中で語句の導入を図るようにする。
	3 ターゲット文の導入	5分	・ 自動車の写真を使って、過去分詞の後置修飾の用法について口頭で導入した後、板書して説明する。
展開	4 英語による概要説明	2分	・ 本時の内容について、口頭で説明する。
	5 テープの聞き取り	1分	・ テープを聞いて、概要を把握させる。
	6 内容理解のプレ・テスト	1分	・ 概要について英語で質問をして、内容理解をチェックする。
	7 英文の説明	14分	・ 一文ごとに英語及び日本語で意味や用法を説明し、内容理解を助ける。(イラストなどの活用)
確認	8 内容理解の確認	5分	・ 英問英答で内容に関する理解度を確認する。(ワークシートを活用してグループで解答作成、口頭及び文章)
定着	9 過去分詞の用法のドリル(言語活動)	12分	・ 現在分詞と比較しながら過去分詞の用法について説明した後、ワークシート(イラスト)を利用して語の並べ替えやペアによる英問英答を行い、過去分詞の用法の習熟を図る。
	単語カードを用いた文章の完成 ワークシートをいた英問英答		語の並べ替え (例) 1 (is, a watch, in, Switzerland, this, made) 2 (got, a letter, English, written, in, I) 英問英答 (例) 1 DoyouhaveaddressmadeinChina? - Yes, I do./No, I don't. 2 What is the languagespokeninCanada? - Theyare EnglishandFrench. 以下, language, Italy---Italian book, Soseki Natsume---Bocchan などカードを利用。 教師は机間指導により、各ペアの支援を行う。 ・ ワークシートの解答は OHP で提示する。
まとめ	10 読みの練習	2分	・ テープを聞きながら、読みの練習をする。 (内容理解を伴った読みになるように指導する。)
	11 課題の指示	1分	・ 過去分詞を用いて自分の持ち物に関して5文程度のストーリーを書いてくるように生徒に伝える。(次回、授業の始めに実物を用いた発表会を実施)
	12 次時の予告		